

下部消化管内視鏡検査に関する説明と同意書

患者氏名 _____ (ID:) _____ 池田クリニック 院長 池田 篤紀

【目的・方法】

大腸の疾患を診断するための検査で、肛門から大腸に直接内視鏡を挿入し、空気で膨らませながら観察します。大腸内をきれいにするため、前日より準備を行います。必要に応じて粘膜組織の採取や色素撒布を行います。また、ご希望によりポリープ切除を行います。

(抗血栓薬内服中の場合や、ポリープの大きさ・数によっては入院可能な施設へご紹介します。) 基本的に、抗血栓薬(血液をサラサラにする薬)などは継続したまま行いますが、医師の判断により抗血栓薬の休止するようお願いする場合があります。また出血時にはその場で内視鏡による止血術などの処置を行うことがあります。どうしても検査中の疼痛(お腹の痛み)や合併症が起こった場合は検査を途中で中止する場合があります。

【合併症(併発症)】

すべての医療行為にはリスクがあり、ある一定の確率で合併症が起こります。

本検査においても下記の合併症が報告されています(過去5年間の消化器内視鏡学会全国調査)。ただし、下部消化管内視鏡検診による癌の発見率は一般に3~4%と言われており、病気の怖さを考えれば、

検査を受けるメリットの方がはるかに大きいと言えます。

- ① 内視鏡による消化管粘膜の出血・穿孔発生頻度: 0.012%(8千人に1件)
- ② 前処置・検査に伴うショック(血圧低下等)、アレルギー等発生頻度: 0.004%(2万5千人に1件)

①②の合併症が起きた時は、適切に対応いたしますが、入院が必要と判断した場合は、入院施設への転送手配を行います。その際の診療も通常の保険診療で行われます。

【費用】 3割負担での自己負担額

下部内視鏡検査 約5000円

追加で病理組織検査 約3500円~9000円

大腸ポリープ切除術 約18000円~24000円

なお、初診料または再診料・投薬料等は別途必要となります。

以上の説明を受け、下記の項目に○を付けて署名をしてください。

同意します

同意しません

平成 年 月 日

患者氏名 _____